

平成30年度

ふるさと くまもと応援 寄附金

使途事業報告書

おうえん
ありがとう



 熊本県

熊本を応援してくださっている皆様へ

「ふるさとくまもと応援寄附金」をお寄せくださり、誠にありがとうございました。

大きな被害をもたらした熊本地震から3年半が経過しました。これまでに、たくさんのご支援をいただいたことにより、震災からの復旧・復興の道のりを一歩ずつしっかりと歩むことができていることに、心からお礼申し上げます。

復旧・復興は未だ道半ばですが、「逆境の中にこそ夢がある」との思いで、皆様からのご寄附を、創造的復興を進めるために、大切に活用させていただいています。

この冊子では、その代表的な取組みについてご報告させていただきます。

引き続き、熊本に住む方や熊本を訪れる方の幸福量を最大化できるよう取り組んで参りますので、温かな応援を賜りますようお願い申し上げます。



令和元年 11 月
熊本県知事 蒲島 郁夫



平成30年4月から平成31年3月までの間に寄せられた
「ふるさとくまもと応援寄附金」

2,914件 約3億2千万円

◆ ふるさとくまもとづくり応援分

教育・文化の振興
保健・医療・福祉の充実
地域活性化
産業振興
安全で安心な県民生活の確保
環境の保全・再生
熊本地震の復旧・復興支援



◆ くまモン応援分

「100年後も愛されるくまモン」を目指すため、くまモンの活動に活用します。

◆ 国際スポーツ大会応援分

2019年に熊本で開催される「女子ハンドボール世界選手権大会」や「ラグビーワールドカップ」等に役立ちます。

◆ 夢教育応援分

子どもたちの教育に役立ちます。また、応援する県内高等学校・特別支援学校(高等部)、その他団体等を指定されると寄附額の半額を交付します。

寄せられた寄附金で実施する事業(目次)

これまでにいただいた寄附金の一部を次の事業に活用させていただきます

ふるさとくまもとづくり応援分

〈熊本地震に関する事業〉

- 01 被災して生活に困窮している方を支援しています 3
- 02 震災復興のための交流促進を支援しています 4
- 03 阿蘇くまもと空港の創造的復興、空港アクセス鉄道整備に向けて取り組んでいます 5
- 04 土砂災害のおそれのある危険区域からの移転を支援しています 6
- 05 熊本地震の記録を残し、教訓を伝えています
- 06 熊本地震での課題への対応を進めています 7
- 07 熊本地震で犠牲になられた方々を追悼し、復興への決意を新たにしています

〈熊本地震以外の事業〉

- 08 誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりを進めています 8
- 09 学校の問題解決にチーム体制で取り組んでいます 9
- 10 発達障がい診断の待機期間解消を進めています
- 11 新しく農業を始めようとする方を支援しています 10
- 12 グローバルに活躍できる人材を育てています
- 13 人と動物が共生する社会を実現する取組みを進めています 11

くまモン応援分 11

国際スポーツ大会応援分 12

夢教育応援分 13

01 被災して生活に困窮している方を支援しています

熊本地震においては約19.7万棟の家屋被害が生じ、47,800人の県民が仮設住宅等への転居を余儀なくされました。衣食住を失い経済面で生活に支障を来す、転校等により子どもの学習環境が大きく変わるなど、様々な課題が生じています。

勤務先の被災などにより退職や転職を余儀なくされた方もおり、今をもって生活に困窮している方も少なくありません。

こうした課題を解決するため、各市町村において「自立相談支援窓口」を設置し、相談員が被災者一人ひとりに寄り添った支援を行っていますが、熊本県は「家計改善支援」「学習支援」という形でバックアップしています。

● 家計改善支援

家計改善支援員を4人増員。家計の状況を適切に把握し、家計改善の意欲を高めるための助言を行うなど、生活再建に向けたサポートを行っています。平成30年度は181件の相談に対応しています。

● 仮設住宅等での学習支援

仮設住宅等の集会所内において塾形式で、週に1回程度、教育支援員や学習支援ボランティアによる学習支援を行っています。平成30年度は、小学生から高校生までの51名が参加。地震を理由に進学等を断念することがないよう、マンツーマンでのサポートを行っています。

● 相談員による支援

特に被害が大きかった益城町、南阿蘇村などに相談員を配置。相談窓口で、生活全般の悩み事の相談に応じています。被災後3年を経た相談には解決が容易でないものも多く、平成30年度は相談員を6人増員し、166件の相談に応じています。



生活困窮者総合相談支援事業
生活困窮者自立支援プラン推進事業
寄附金充当額 12,000 千円

02 震災復興のための交流促進を支援しています



● 「くまもと復興映画祭」(熊本市)
熊本地震で大きな被害を受け、平成30年4月に営業再開した「熊本市民会館シアーズホーム夢ホール」で平成31年4月に開催。熊本出身の映画監督・行定勲さんがコーディネーターを務め、3日間で約3千人が来場しました。併せて、菊池市でも映画祭が開催され、映画の上映、監督や出演者によるトークショー等が行われました。

● 「国内旅行者40万人の目標に向けたプロモーションと受入環境整備事業」(南小国町)
阿蘇地域北部に位置する南小国町は、アクセス道路の寸断等により観光客が大きく減少しました。旅行者の利便性を高めることにより来訪者を増やすため、より魅力ある宿泊プラン設定やキャンプ場等の予約環境整備、観光パンフレットの作成等を行っています。

熊本地震後、観光客数が減少したことを受け、県内外から人を呼び込み、地域を元気にする取り組みを行っています。

平成30年度は、復興支援の一環として、リブワーク藤崎台球場(藤崎台県営野球場)においてプロ野球オールスターゲームが開催されました。これに合わせ、球場に隣接する熊本城二の丸広場で「くまもと応援パーク」を開催し、ステージイベントや熊本県産品などによるフードコートの設置などを行ったところ、2日間で延べ2万人の来場がありました。

併せて、市町村や地域団体等が行う震災復興のための交流促進の取り組みを支援していますが、主なものは次のとおりです。

地域づくりチャレンジ推進事業
寄附金充当額 280,000 千円

03 阿蘇くまもと空港の創造的復興、空港アクセス鉄道整備に向けて取り組んでいます



新ターミナルビルのイメージ(令和5年春供用予定)

熊本地震で被災した「阿蘇くまもと空港」を「創造的復興」のシンボルと位置付け、コンセッション方式(民間委託)の導入による空港と周辺地域の活性化を目指しています。

令和2年4月から、民間会社による空港運営が開始され、令和5年の春には、国内線・国際線一体型のターミナルビルが完成予定です。

民間会社が建設する新ターミナルビルでは、国内初となる、国内線と国際線の旅客が一緒に利用できる「滞在型ゲートラウンジ」のほか、地域に開かれた商業エリアやにぎわい広場などが整備される予定です。

阿蘇くまもと空港創造的復興推進事業
寄附金充当額 10,000 千円



JR三里木駅から分岐する「空港アクセス鉄道」のルートイメージ

「阿蘇くまもと空港」への主なアクセス手段は自家用車やバスであり、「渋滞などにより到着時間が読めない」「バスが満員で乗車できない」という課題を抱えています。

空港へのアクセスを改善するため、平成30年度に「鉄道延伸」「モノレールの新設」「熊本市電延伸」の3案について比較検討を行い、「鉄道延伸」が速達性や大量輸送性に優れ、事業費を相対的に低く抑えることができ、早期に実現できる可能性が高いとの結論を得ました。令和元年度は詳細な調査、検討を進め、空港を多くの人たちにとって利用しやすいものとするために、空港アクセス鉄道の実現に向けて取り組んでいきます。

阿蘇くまもと空港アクセス整備調査検討事業
寄附金充当額 20,000 千円

04 土砂災害のおそれのある危険区域からの移転を支援しています



大雨などにより土砂災害が発生する危険性が高い土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)から安全な区域への住宅移転を進めています。移転先の住宅建設・購入費、アパート等の家賃1年分などに対し、最高300万円まで補助することにより、安全な暮らしの実現を支援しています。

この事業により、平成30年度末までに72件の移転が決定しました。熊本県内のレッドゾーン内には現在も約23,000戸の家屋があることから、引き続き取組みを推進していきます。

危険地区からの移転促進事業
寄附金充当額 60,000 千円

05 熊本地震の記録を残し、教訓を伝えています



自治体や関係団体などから収集した被害状況などに関する資料を、Webサイト「熊本地震デジタルアーカイブ」で公開しています。

平成30年度は、県内市町村や熊本大学などから提供いただいた約6万5千件の資料を公開しました。令和元年7月末時点で、約10万件を公開中です。最近では、防災・減災を呼びかける県外の自治体の広報誌やパンフレット、コマーシャルなどにアーカイブの資料が掲載されるなど、様々な場面で活用され始めています。

熊本地震デジタルアーカイブ 検索

熊本地震デジタルアーカイブ事業
寄附金充当額 42,000 千円

06 熊本地震での課題への対応を進めています



熊本地震の経験や教訓を災害対応力の向上に活かすため、地震対応の検証を行いました。この検証で挙げられた課題を解決し、今後発生しうる災害に備えるため、防災体制の整備を進めています。

熊本地震では余震の多さやプライバシーの問題などから、車中泊など、避難所ではない場所に避難する方が多数発生し、その実態把握が困難であったため、行政機関や関係団体が行う支援の大きな支障となりました。

当時の避難所外避難者の実態等を調査・分析し、その結果を踏まえて、災害時の避難所外避難者対策の推進を図ります。

熊本地震検証課題対応事業
寄附金充当額 4,000 千円

07 熊本地震で犠牲になられた方々を追悼し、復興への決意を新たにしています



熊本地震で犠牲になられた方々への哀悼の意を表するとともに、復興に向けた決意を新たにするため、地震の翌年度の平成29年度から毎年、前震が発生した4月14日に、犠牲者追悼式を開催しています。平成31年4月14日に開催した式典には、ご遺族や内閣府防災担当大臣をはじめ約350人が参列されました。

また、熊本地震が発生した4月14日と16日を含む約2週間を「復興祈念ウィーク」と位置付け、創造的復興のあり方などを議論する「くまもと復旧・復興有識者会議」などの行事を開催しました。

熊本地震犠牲者追悼式事業
寄附金充当額 3,421 千円

ふるさとくまもとづくり応援分(熊本地震以外の事業)

08 誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりを進めています

熊本県内の交通事故死者と振り込め詐欺等の被害者に占める65歳以上の割合は、約5割に上ります。熊本県の高齢化率は全国平均よりも高く、今後もこの傾向が続くことが予想されます。

これらの被害を未然に防ぐため、警察OBを中心とした「県警声かけ・訪問隊」(通称「県警ひまわり隊」)を結成し、ボランティア等と連携して、高齢者を主な対象とした個別訪問活動や街頭での声かけ・見守り活動などの安全対策を行っています。

平成30年度は、約50,000件の高齢者世帯等の個別訪問、約100回の交通安全教育・振り込め詐欺等被害防止講習会等を行いました。

※平成30年中の高齢者の交通事故死者数35人(前年比-9人)、高齢者の振り込め詐欺等被害件数40件(前年比-53件)。

また、近年、登下校時に子どもが被害者となる凶悪事件や重大交通事故が発生するなど、通学路における子どもの安全確保が課題となっています。

凶悪事件の発生防止や不審者検挙などに活用するため、「監視カメラ」を整備するとともに、悪質・危険な運転の抑止効果が期待される「速度違反自動取締装置」も整備しています。

併せて、学校や自治体、地域住民等が連携してのパトロールや、通学路における重点的な交通取締りを実施することで、子どもが被害者となる犯罪や交通事故の未然防止につなげています。



くまもとの「まち」と「ひと」を守る声かけ安心実現事業
子供を守る通学路対策事業
寄附金充当額 46,000 千円

09 学校の問題解決にチーム体制で取り組んでいます

近年のいじめや不登校、問題行動などの課題は、学校だけで解決することが困難な事例も多く、関係機関と協力して対応する必要があります。そのため、様々な専門家を学校や県教育委員会の出先機関である教育事務所に置き、チーム体制で児童生徒を支援しています。



- 教職員・警察官のOBである「学校支援アドバイザー」が、学級が落ち着かなかつたり、問題行動が目立ったりする場合などに、教職員の相談にのり、助言を行います。
- 心理の専門家である「スクールカウンセラー」が、児童生徒や保護者と相談を行い、悩みや不安の解消を図りながら、課題の早期発見に当たります。
- 福祉の専門家である「スクールソーシャルワーカー」が、福祉や医療機関と連携した取り組みを進め、課題解決に当たります。

チーム学校活性化事業
寄附金充当額 120,000 千円

10 発達障がい診断の待機期間解消を進めています

発達障がいに関する認知が進み、発達障がい疑われる子どもの医療機関受診が増える一方、診療できる医師や医療機関の不足により、診断までに長い待機期間が発生しています。



この状況を改善するため、熊本県発達障がい者支援センターに心理検査が可能な専門心理士を配置し、これまで医療機関が行っていた患者の心理検査や保護者へのカウンセリングを行うことで、医療機関の負担を軽減し、診察までの待機期間を短縮します。

待機期間が短くなることにより、必要な人が必要な医療を受けられるようになります。さらに、各地域の療育センターなどの支援施設における療育や、発達障がいの子どもがいる家族を対象とした悩み相談につなげるなど、適切な支援を受けられるようになります。

発達障がい者支援医療体制整備事業のうち発達障がい診断待機解消事業
寄附金充当額 5,000 千円

11 新しく農業を始めようとする方を支援しています

熊本県は、認定農業者数が全国3位に位置する「農業県」。

農業は熊本県の基幹産業ですが、維持するためには新規就農者を増やしていく必要があります。そのために、「就農のための研修受入体制の整備」と「就農に際しての初期投資の負担軽減」に取り組んでいます。



● 就農準備のための研修受入体制の整備

農業を始める人が安心して就農できるよう、栽培技術等を効果的に学ぶことができる研修専用ビニールハウスを2地域に設置します。

● 就農に際しての初期投資の負担軽減

経営開始時の経済的負担を軽減するため、新規就農者への貸出用ビニールハウスを6件整備します。併せて、中古のビニールハウスを売りたい人と買いたい人のマッチングや、優良農地の貸付けのサポートも行います。

熊本型新規就農総合支援事業
寄附金充当額 72,000 千円

12 グローバルに活躍できる人材を育てています



自分の夢と可能性を発見し、世界の中の日本・郷土熊本に誇りを持ち、グローバル社会に視野を向ける機会を提供し、グローバルに活躍できる人材を育成するため、毎年、小中学生を台湾に派遣しています。

平成30年度は30名が参加し、「夢」をテーマとした熊本県知事の講話聴講、現地でのホームステイや青少年との交流などを行いました。結果、異文化に触れることで、グローバルな視点を持ち、自分の夢について真剣に考える貴重な機会となりました。

また、高校生が小中学生を支援する機会でもあり、高校生の積極的な社会参加と、グローバル社会で活躍できるリーダーの育成につなげています。

グローバルジュニアドリーム事業
寄附金充当額 3,500 千円

13 人と動物が共生する社会を実現する 取組みを進めています



「命を大切に、やさしさあふれる人と動物とが共生するくまもと」を目指し、動物が寿命を迎えるまで適切に飼育し続けることの普及啓発や、熊本県で保護している動物の飼い主への返還や譲渡などに取り組んでいます。

平成30年度は、動物愛護テレビ番組の作成、動物愛護団体と合同の譲渡会(2回)、動物とのふれあい方教室(12回、のべ498人が参加)等を行いました。

結果、平成27年度には約2,370頭あった犬猫の安楽死が、平成30年度は119頭となりました。

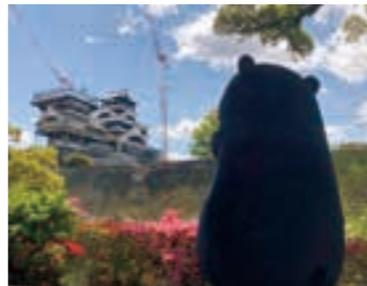
令和元年度は、これまでの動物愛護の取組みを丁寧に進めるとともに、活動の拠点となる熊本県動物愛護センターや保健所の機能を強化し、殺処分ゼロを目指します。

動物愛護推進事業
寄附金充当額 10,000 千円

くまモン応援分

「くまモン隊」の活動を支援しています

九州新幹線開業をきっかけに誕生した熊本県のPRキャラクター「くまモン」は、多くの方々の応援を受け、おかげさまで、令和2年3月にはデビューしてから10周年を迎えます。今では国内にとどまらず、海外でも様々なチャレンジを続けています。



そんな「くまモン」が100年後も愛されるキャラクターであり続けることを目指して、平成30年度に「熊本県くまモン活躍基金」を設置しました。「くまモン応援分」のご寄附や海外でのイラスト利用料などを積み立て、継続的な活動を支援していきます。

「くまモン」は、復興への道を進む熊本とともに、これからの活動にも全力で取り組んでいきますので、引き続き応援をよろしくお願いします。

熊本県くまモン活躍基金積立金
寄附金充当額 20,000 千円

国際スポーツ大会応援分

国際スポーツ大会を成功させ、復興する熊本の姿を発信します

熊本地震後、被災された方々の「すまい」の再建支援などの取組みを重ねていく一方、熊本地震前から開催が決定していた2つの国際大会「ラグビーワールドカップ」と「女子ハンドボール世界選手権大会」について、復旧・復興に向かう姿を世界にアピールする機会と位置付け、成功に向けて重点的に準備を進めてきました。

世界トップレベルの試合を、目の前で観戦いただく機会です。「オール熊本」で盛り上げていきますので、ぜひ観戦にお越しください。

●一校一国運動

選手の皆様により喜んでいただくため、熊本県内全ての学校が、それぞれに参加国を応援します。併せて、授業の中でその国の勉強をしたり、試合を観戦したりすることで、子どもたちが国際理解を深め、思いやりの心や夢を持つ機会とします。

●県産農林水産物のPR活動

試合当日の「ファンゾーン」では、全国有数の農業県・熊本自慢の農林水産物・加工品のPR・販売コーナー、特産品のお茶や壺など、和の文化に親しめるコーナーを設置します。また、大会の開催期間中、熊本県産の生花を使った装飾を、交通機関や観光施設に施し、来熊の皆様をお迎えします。

写真提供：
日本ハンドボール協会



【ラグビーワールドカップ】

令和元年10月6日に「フランス対トンガ戦」、同13日に「ウェールズ対ウルグアイ戦」が開催され、満員のお客様で選手の皆様をお迎えすることができ、大変盛り上がりました。温かな応援をありがとうございました。

【女子ハンドボール世界選手権大会】

いよいよ11月30日に開幕し、12月15日までの期間、世界中から24チームが集結し、熊本県内5会場で全96試合が行われます。選手の皆様、観客の皆様楽しんでいただき、熊本県としても大きな成果を得られるよう、様々な準備を行っています。

2019 女子ハンドボール世界選手権大会推進事業
国際スポーツ推進事業 他
寄附金充当額 587,000 千円

夢教育応援分

高等学校等に寄附金を 交付しました



学校等を指定して行われた寄附については、寄附金の2分の1を、指定された学校等にお渡します。

寄附金は、各学校等で図書や運動用具を購入するなど、有効に使われます。

また、寄附金の残り2分の1は、県の教育振興事業に使われています。

夢教育応援事業 他
寄附金充当額 6,493 千円

熊本地震により被災した 世帯からの大学進学等を 支援しています



進学には様々な費用が必要となりますが、熊本地震により被災した世帯では、生活の再建などにおいて、既に大きな経済的負担を強いられています。その負担を軽減するため、被災した世帯の子どもが大学等に入学する際に必要な費用を、給付金として支給します。奨学金と合わせて経済的な不安を軽減し、進学したいという夢を後押しします。

夢応援進学資金給付事業
寄附金充当額 400 千円

海外大学への進学等を 支援しています



海外大学を目指す生徒等を支援するため、「海外チャレンジ塾」や進学・留学説明会を開催するほか、生徒への進学資金等を交付するなど、グローバル人材の育成に取り組んでいます。平成30年度は、「海外チャレンジ塾」で学んだ生徒のうち8人が海外の大学に合格しました。

令和元年度は約60人の生徒が「海外チャレンジ塾」で学んでいます。

熊本時習館海外チャレンジ推進事業
寄附金充当額 8,500 千円

平成30年度(2018年度)ふるさとくまもと応援寄附金 充当事業(令和元年度(2019年度)実施分)

単位:千円

ふるさとくまもとづくり応援分

【地震関係】

事業名	寄附金充当額	ページ
1 熊本地震犠牲者追悼式事業	3,421	7
2 「ONE PIECE」連携復興応援事業	41,586	
3 復旧・復興広報強化事業	15,000	
4 熊本地震 デジタルアーカイブ事業	42,000	6
5 実践的地域防災力強化事業	5,000	
6 熊本地震検証課題対応事業	4,000	7
7 自助力強化推進事業	4,000	
8 防災センター整備事業	10,000	
9 熊本地震被災市町村支援事業	6,000	
10 県立劇場管理運営事業(アートキャラバンくまもと事業)	1,500	
11 立野・黒川地区地域再生等支援事業	5,000	
12 スポーツによる地域活性化事業(復旧・復興発信事業)	5,000	
13 地域づくりチャレンジ推進事業	280,000	4
14 阿蘇くまもと空港創造的復興推進事業	10,000	5
15 阿蘇くまもと空港アクセス整備調査検討事業	20,000	5
16 災害弔慰金事業	10,000	
17 生活困窮者総合相談支援事業	4,500	3
18 生活困窮者自立支援プラン推進事業	7,500	3
19 熊本地震を踏まえた自殺予防等対策推進事業	6,000	
20 認定訓練実施事業	1,500	
21 市町村施設整備促進事業	25,000	
22 「がんばろう熊本」観光復興事業のうち熊本型教育旅行の構築事業	7,000	
23 農業労働力確保対策事業	12,000	
24 農業外国人材受入体制整備事業	20,000	
25 平成28年熊本地震被害対策資金(農業)	4,500	
26 熊本とつながる農業外国人材育成事業	8,000	
27 建設産業総合支援事業のうち建設産業若手人材確保緊急対策事業	2,000	
28 くまもと型木造伝統構法普及促進事業	7,000	
29 土砂災害警戒避難対策事業	200,000	
30 危険地区からの移転促進事業	60,000	6
31 地域復興拠点づくり事業	7,000	
32 住宅情報提供・相談事業のうち、くまもと型復興住宅推進事業	14,000	

【地震関係以外】

33 世界文化遺産登録推進事業	30,000	
-----------------	--------	--

【地震関係以外】

事業名	寄附金充当額	ページ
34 阿蘇くまもと空港国際線振興対策事業	150,000	
35 施設通所等交通費支援事業(御所浦振興)	1,000	
36 発達障がい者支援施設整備事業のうち発達障がい地域支援体制サポート事業	4,000	
37 発達障がい者支援施設整備事業のうち発達障がい診断待機解消事業	5,000	9
38 動物愛護推進事業	10,000	11
39 グローバルジュニアドリーム事業	3,500	10
40 事業承継加速化推進事業	5,000	
41 くまもとの未来を築く子どもたちへの学校給食支援事業	8,000	
42 くまもと里モンプロジェクト推進事業	28,000	
43 スマート農業普及推進事業	15,000	
44 畜産経営バックアップ事業	10,000	
45 阿蘇草原スマート農業実証事業	1,000	
46 環境保全型農業総合支援事業	12,000	
47 地下水と土を育む農業総合推進事業	42,000	
48 熊本型新規就農総合支援事業	72,000	10
49 耕作放棄地解消事業	11,000	
50 スマート農業実践による就農促進事業	2,000	
51 くまもとの森林利活用最大化事業	15,000	
52 くまもとの漁村元気づくり事業	13,000	
53 くまもとの魚海外市場ターゲット事業	5,000	
54 新しい漁村を担う人づくり事業	5,000	
55 スマート養殖業技術開発事業	6,000	
56 調和的アユ増殖対策事業	2,000	
57 内水漁業振興対策事業	3,000	
58 有明海・八代海再生事業	6,000	
59 空家等対策総合支援事業	6,000	
60 子供を守る通学路対策事業	6,000	8
61 くまもとの「まち」と「ひと」を守る声かけ安心実現事業	40,000	8
62 迅速・的確な初動警察活動の強化	200,000	
63 教育サポート事業	60,000	
64 「親の学び」推進事業	5,500	
65 子どもの読書活動推進支援事業	1,000	
66 キャリア教育等推進事業	2,000	
67 高校生キャリアサポート事業	25,000	
68 県立学校いじめ・不登校対策事業	36,000	

【地震関係以外】

事業名	寄附金充当額	ページ
69 いじめ防止対策推進事業	9,000	
70 いじめ未然防止推進事業	1,000	
71 幼児教育体制の充実・活用強化事業	1,500	
72 「かがやけ!肥後っ子」事業	2,500	
73 チーム学校活性化事業	120,000	9
74 子ども達によるいじめ防止推進事業	2,000	
75 特別支援学校キャリアサポート事業	4,000	
76 子どものスポーツ環境整備支援事業	12,000	

くまモン応援分

77 熊本県くまモン活躍基金積立金	20,000	11
-------------------	--------	----

国際スポーツ大会応援分

78 国際スポーツ大会学校観戦事業	10,000	
79 2020東京パラリンピック選手育成・強化推進事業	8,000	
80 県内開催国際スポーツ大会地域食料等PR事業	2,500	12
81 農業生産工程管理(GAP)導入促進事業	4,000	
82 地産地消でおもてなし事業	1,500	
83 くまもと畜産物流通戦略対策事業	5,000	
84 くまもとの花生産流通推進事業	4,000	12
85 国際イベント森林認証材供給体制づくり事業	7,000	
86 2019女子ハンドボール世界選手権大会推進事業	400,000	12
87 国際スポーツ推進事業	15,000	
88 国際スポーツ大会開催に伴う警備対策費	30,000	
89 国際スポーツ大会一校一國運動推進事業	100,000	12

夢教育応援分

90 有斐学舎運営費補助	402	13
91 夢教育応援補助	315	13
92 夢教育応援事業	5,776	13
93 夢応援進学資金給付事業	6,000	13
94 熊本時習館海外チャレンジ推進事業	8,500	13
95 私立幼稚園子育て支援事業	8,000	
96 高校生の留学促進	1,500	
97 英語教育改革推進事業	16,000	

※一部、平成29年度以前に寄せられた寄附金の積立分も充当しています。

熊本のすがた

引き続きの応援をお願いいたします



県木 クスノキ



県花 リンドウ



県鳥 ヒバリ



県魚 クルマエビ

人口・世帯数 (R1.9.1現在)	1,747,008 人 724,235 世帯
合計特殊出生率 (H29人口動態統計)	1.67 (全国6位)
平均寿命 (H27厚生労働省)	男: 81.22 歳 (全国7位) 女: 87.49 歳 (全国6位)
産業別県内総生産構成比 (H27)	第一次産業 3.5% 第二次産業 22.6% 第三次産業 73.3%
農業生産額 (H29生産農業所得統計)	3,423 億円 (全国6位)

【熊本地震の概要】

震度6弱以上 7回 (うち震度7が2回)
余震 4,454回 (H29年末現在)

被災人口 約148万人(県人口の約83%)
最大避難者数 約18.4万人(同10.3%)
家屋被害 約19.8万棟(一部損壊以上)

【熊本地震からの復旧・復興の状況】

仮設住宅入居者数 (R1.9月末現在)
8,043人 (最大時47,800人)

災害公営住宅整備戸数
1,715戸 (整備完了 767戸(R1.9月末現在))

熊本県の熊本地震関係予算額計 (R1.9月補正予算後)
9,348億円

発行/熊本県総務部市町村・税務局税務課

〒862-8570(県庁専用郵便番号) 熊本市中心区水前寺6丁目18番1号(熊本県庁本館3階)

電話 096-333-2098 メール k-furusato-n@pref.kumamoto.lg.jp

発行者:熊本県
所属:税務課
発行年度:令和元年度